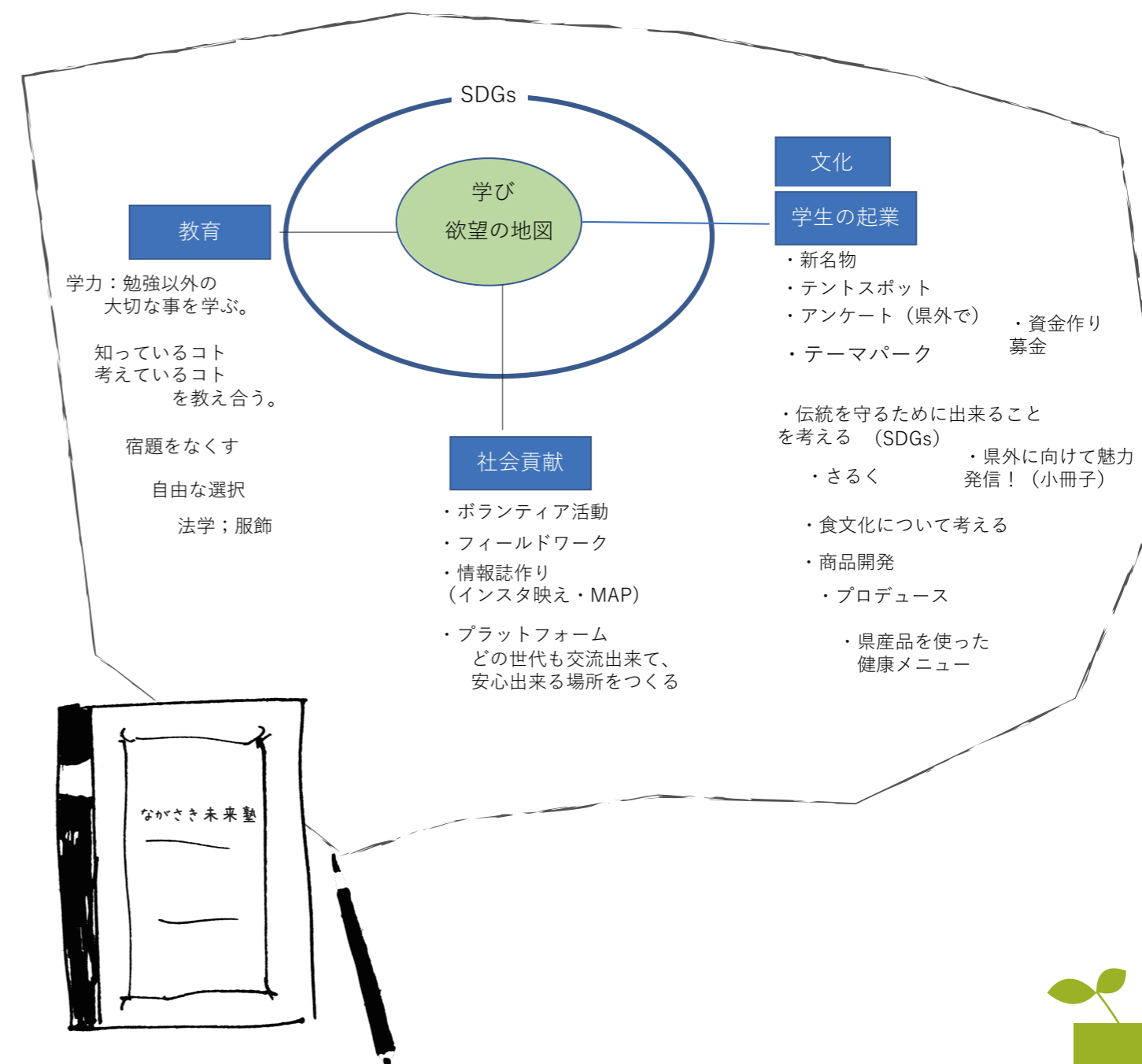




ながさき未来塾

未来塾でしたいこと

スタート会議（2020.6.8）でのディスカッションをもとに、“塾活動で何をしたいか”を検討。大人に決められたことを、ただ学生たちが実行するのではなく、主体である学生自らの意思で方向性を考えました。



Introduction

agasaki

私たちは、長崎の未来がどのようなようになるのかを想像はできたとしても、実は誰も知りません。ただ、現在（いま）を生きている私たちが、どのような意識を持って、どのように行動していくかで、未来の姿を創り出していくことは事実です。

この社会が持続していくかどうかは、これからの私たちの生き方、考え方、暮らし方の選択で違ってくるのかもしれませんが、できれば持続可能な社会であって欲しいと願う中で、その鍵を持つのは「未来を担う」いや、「**未来の創り手**」となる子どもたちではないのでしょうか。

子どもたちのつづやき、子どもたちの未来構想に耳を傾けていると、とても明るい長崎の未来（社会）が想像できます。実現のためには、鍵を握る子どもたちが集い、語り、アイデアを出し、社会に参画し、具体的に取り組める環境づくりが必要と思い「**ながさき未来塾**」を開催しました。

初年度は**高校生を中心**に、俯瞰的な視点で長崎を見ることを中心に活動しました。この冊子は2019年度に「ながさき未来塾」で活動した内容を編集しています。未来に希望を持つ方もいれば、不安を抱く方もいるかと思いますが、皆様のこれから（未来）を考えるきっかけになっていただければと思います。

Contents

- ・ながさき未来塾でやりたいこと・・・1
- ・スタート会議・・・2
- ・「ヒトの未来を考えよう」・・・4
- ・高校生によるアンケート調査・・・10
- ・長崎に関するアンケート・・・12
- ・全国のランキングから長崎を読む・・・14
- ・フィールドワーク・・・16
- ・「Most Likely to Succeed」・・・18
- ・「思いを実現するチカラ」・・・20

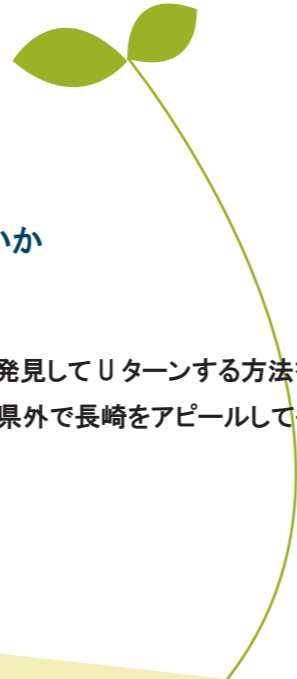


2019.6.8

ながさき未来塾 スタート会議

#若者の目線
#大人の目線
#現状と課題

塾活動スタートにあたって、まずは長崎市の現状かつ課題の「人口流出が全国でワースト1位」について議論。学生・大人に分かれてディスカッションし互いに共有、違う世代の意見も聞くことで広い視野で議論することができました。



質問① 長崎市の人口流出全国1位について問題だと思わないか

思う(大人)	思う(若者)	思わない
<ul style="list-style-type: none"> 市場が狭くなる 働き手が減少 税収が減る 	<ul style="list-style-type: none"> 職業の選択肢が少なくなる 学びたいものが少なくなる 未来が暗い 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の魅力を魅力を再発見してUターンする方法を検討すれば 優秀な人材を育てて、県外で長崎をアピールしてもらう

質問② 若者は現在(いま)の長崎をどう感じているか(自分の経験を通して)

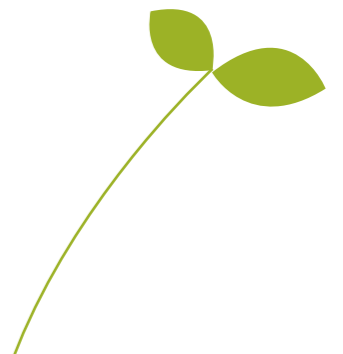
- 母は関東でデザイナーの仕事をしていたが、離婚を機に地元長崎に帰ってきた。しかし、やりたい仕事がなく、やりたい仕事をするために長崎を離れた。
- 自分の地域には子ども会があり、夏祭りなどを通して地域との繋がりがあ。こうした良さをもっと生かしていくべき。
- 自分の地域は子ども会がなく、お年寄りが多いため、老人会の行事は多いが子どもが参加する機会は少ない。
- 東京では小学生が東大に通ったり、予備校で学校の単位を取れるなど、新たな制度があるが、長崎では今までのレールに乗るしかない。教育の機会が少ないし、刺激が少ない。
- 都会ではPCを学校教育に導入しているようだが、長崎はあまりない。教育の格差を感じる。
- 小学・中学校の統廃合が多く、少子化が進んでいるのを実感している。
- 大阪にいたところが結婚して親元で暮らそうとしたが、長崎に戻って来て働く場がないので大阪に残った。
- 美容専門学校に行きたいが、学校が少ないうえに、ロールモデルとなる講師がいないので県外に行くしかない。
- 他県では電車などで他県への移動手段が簡単のため学校の選択肢も増えるが、長崎は選択肢が少ない。

質問③ 若者の意見を聞いて大人はどう感じたか

- 悩みは大人も同じで、専門的な学びをする選択肢が少なく、学ぼうとしても交通費や宿泊費の負担が大きい。しかも所得が低いので諦めざるを得ないのが現実。今後は提供する側に回るという市場は生まれないのか？
- 娯楽・仕事・憩い・学びの場が少ないうえに、坂が多く地形も不便であることで長崎は住みにくいことを実感。
- 教育や経済の意見が出てきたことは意外だった。教育の機会や刺激は今後、ITで解決するとは思いますが、長崎県全体として教育の予算が減っているのは事実なのでその点は大人が頑張るべきところ。
- 長崎のことを長崎の子どもが知らないのが現状。生徒が少ないメリットは教師が子どもに密に関われる。これは子どもに郷土・地域愛を育てるチャンスでもある。
- 長崎の子どもは平和教育が浸透している。もっと平和教育を学校が広げていくべき。
- 進学させることが重視されている為、生徒が自分たちで企画・運営する活動が足りていないと思う。子どもに心を育む機会を教育者や行政、大人がもっと与えたい。
- 子ども会などの大人が子どもに関われる環境がなくなってきた。

質問④ 大人の意見を聞いてどう感じたか

- 平和学習で日本が被害を受けたことは学んだが、日本が他国に何をしたかを学ぶ機会がない。
- ものごとの表面(数字など)を捉えずぎている。表面を議論しても何も生み出さない。生産的な議論を行うべき。
- 学んだことを大勢と共有し、ディスカッション、プレゼンテーションの機会を作りたい。自分の意見や他の意見を客観視することが大切になると気づいた。
- 教育費の予算を多くして、総合学科を充実させ自分でやりたいことができる学校を増やすことで解決できることは多いと思う。
- 当事者として社会と向き合うためのふるさと教育は必要だと思う。





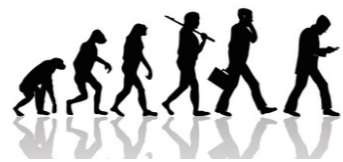
2019.7.27

ながさき未来塾

「ヒトの未来を考えよう」

- 私たちはどこから来たのか
- 私たちは何者なのか
- 私たちはどこに行くのか

- #近代化
- #グローバル経済
- #エコロジカル・フットプリント



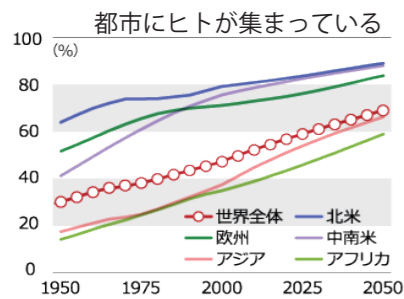
長崎

鎖国下の日本で繁栄を誇った天領・長崎。幕末には自由貿易港となり、海外からはグラバーを含む多くの貿易商が長崎を訪れていた。

明治以降は横浜に取って代われ、貿易額は激減してしまうものの、三菱が国から長崎の造船所を買取り、日露戦争後には東洋1の造船所となる。炭鉱業も、三菱が近代的な採炭技術と導入したことで、全盛期の長崎の石炭産出量は全国のおよそ1割を占めていた。

造船業や炭鉱業の発展が多くの人を呼び込み、1929年、福岡市に抜かれるまでは、九州の都市人口1位をキープしていた。

「近代化」というプロジェクト



日本近代化の始まり

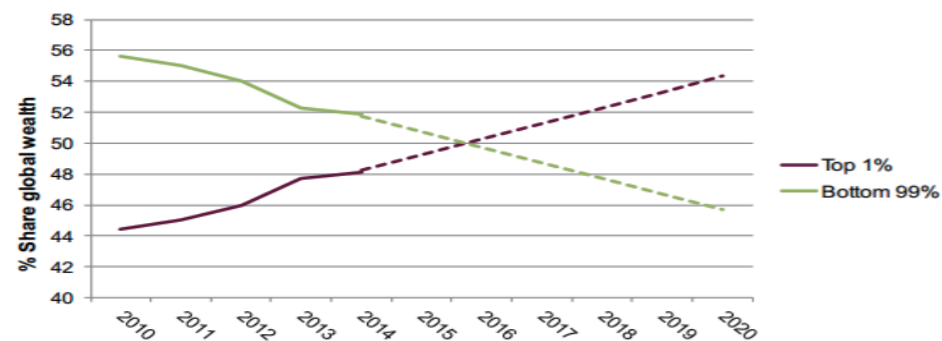


「核」の時代の始まり



2016年、世界のトップ1%が独占する富の99%を上回る

Figure 2: Share of global wealth of the top 1% and bottom 99% respectively; the dashed lines project the 2010–2014 trend. By 2016, the top 1% will have more than 50% of total global wealth.

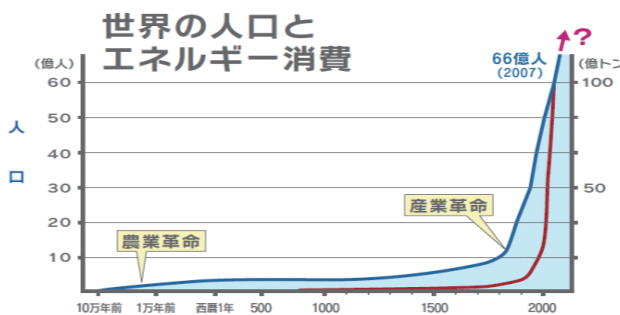
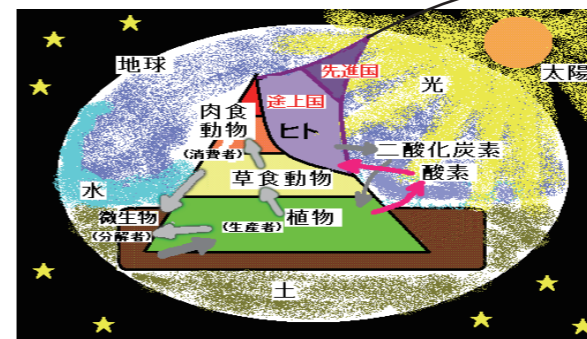


トリの目 (物事を俯瞰的にみる)、



ムシの目 (物事を具体的にみる) になってみる

グローバル経済の仕組みと自分



環境問題の原因は、人間界の経済システムがどんどん大きく「成長」し、自然界への負荷が増えていることにある。世界の人口は増え続け2007年には66億人だったが、2019年には77億1500万人を超えている。私たちホモサピエンスは20年ほど前に登場した種だけれど、20世紀以降に急激に増え、経済も急成長した。それとともに、エネルギーや資源の消費が増え、様々な環境問題が生じている。

地球は有限なので、このままのやり方でずっと拡大を続けることはできない。私たちはこれからどのような選択をするのか？

エコロジカル・フットプリント



エコロジカル・フットプリントとは

食料を生産するための農地・牧草地・漁場、排出した二酸化炭素を吸収したり、木材を得たりするのに必要な森林など、人間が暮らすのに必要とする土地の面積の合計。

1人当たりのエコロジカル・フットプリントは、世界全体で合計すると2.9haだが、地球が許容できるのは1人当たり1.7haといわれている。人類の活動はすでに地球の限界を超えている。

日本人1人当たりのエコロジカル・フットプリントは5.0ha (地球2.9個分)、長崎は4.3ha (地球2.6個分)なので、世界中の人が、私たちのような暮らしをしたなら、さて地球はどうなるのか？ この文明社会を続けていくには、全員が地球1個分(1.7ha)の暮らしをすることが必要になる。



2019.7.27

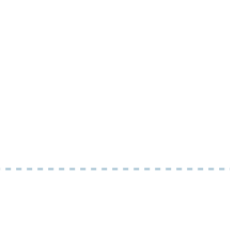
ながさき未来塾

「ヒトの未来を考えよう」

私たちはどこから来たのか
私たちは何者なのか
私たちはどこに行くのか

#未来予測
#観光
#エネルギー

こうなるだろうという未来
こうなったらいいなという未来



今までにない新しい仕事生まれる



再生可能エネルギーを使うようになる



識字率 100%へ



緑地の増加



「学校がなくても学べるシステム」ができる

AI と共存



子どもや若者のための政策が増える



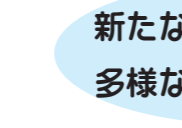
ジェンダー平等を実現しよう

新たな価値観の創生と尊重、受容



島の有効活用

離島の注目が高まる



新たな文化活動の誘致

多様な価値観の受容



エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

世界中が民主主義を目指す

エネルギーを使わない新しい発明



気候変動に
具体的な対策を

地球温暖化の緩和



人や国の不平等をなくそう

国境がなくなる

アフリカが大国へ

SDG s の達成



働きがいも
経済成長も

各国の武力放棄

働き方がより自由になる



平和と公正を
すべての人に

先進国の交替による方針の転換

都市がより環境を大切に暮らしている

SDG s の達成



住み続けられる
まちづくりを

海外からの移住者増える

Iターン・Uターンが増える



産業と技術革新の
基盤をつくろう

県外からの移住者が増える

今のままがずっと続く

SDG s の達成

5年

10年

現在

さらなる人口減少

過疎化

戦争への反対意識、被爆体験の風化

観光客 0 へ

若い人が離れる (仕事、学校)

産業衰退

産業が観光だけになる

貧困

景気悪化

高齢化

仕事なくなる

経済格差が広がる

過疎化と過密化

国民の政治意識の低下

国債の増加

大国の属国化

AI 後進国

食料自給率の低下

犯罪の増加

税制度の崩壊

経済破綻

地球温暖化

人口増加

自然災害

天然資源なくなる

どこかで戦争がおこる

海面上昇

食料不足

世界各国の孤立化

人が AI が作る社会システムに従っている

宇宙への移住

ウィルス拡散

#高校生の視点
#高校生から見た長崎
#大人から見た長崎

7月に調査を実施したにもかかわらず、高校生の質問に暑い中、熱心に応じていただきました。高校生も大人の意見を真剣に聞き、ふるさとの未来を考えるきっかけとなりました。結果、「人口増加ではなく減少を前提として、問題とうまく付き合うという考え方も必要ではないか」という提言にも至りました。

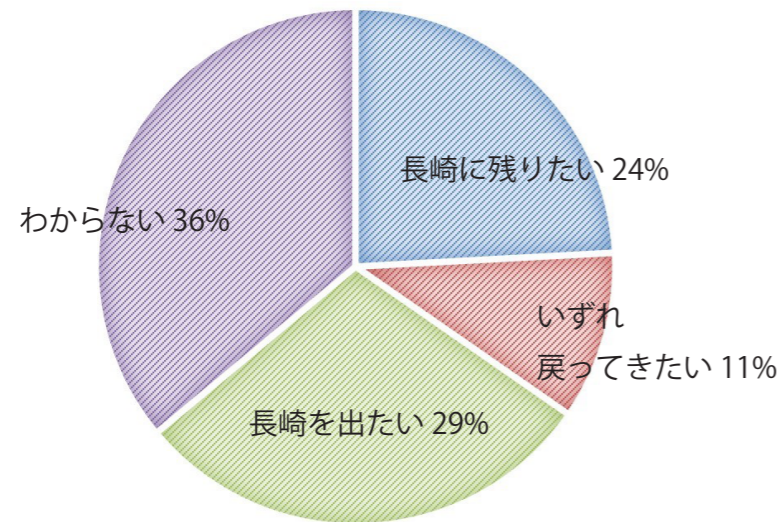
ながさき未来塾

高校生によるアンケート調査

自らのふるさとの抱える問題を実感するため、7月に長崎鶴洋高校生徒355名と、一般の方150名を対象にアンケートを実施しました。一般の方へのアンケートは、長崎駅陸橋周辺と長崎ココウォークバスセンターにご協力いただきました。

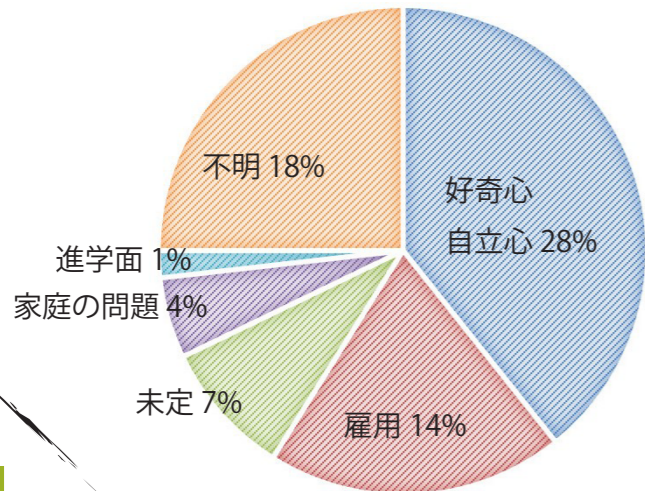
■高校生対象アンケート

問1 あなたは将来、長崎に残りたいですか？

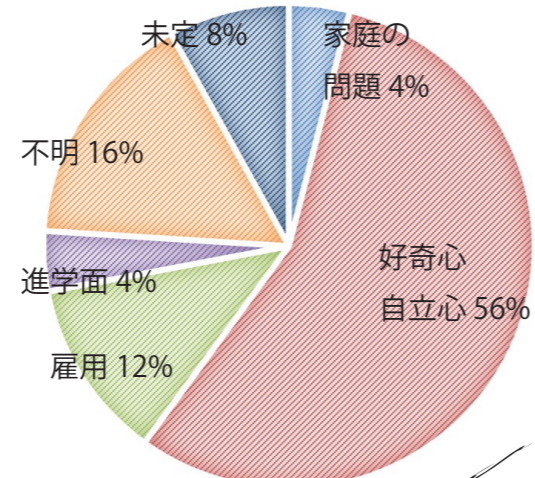


問2 問1のように考えている理由を教えてください。

《男子生徒》

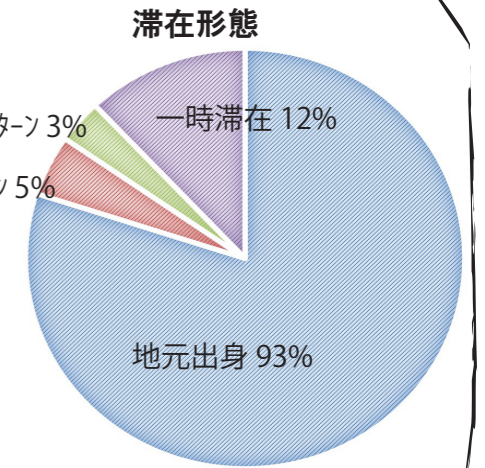
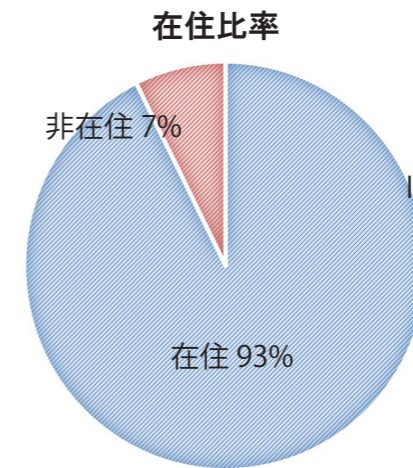
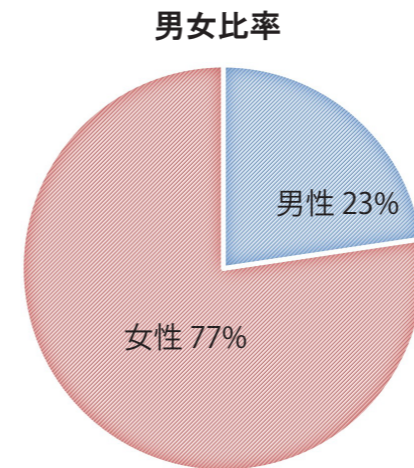


《女子生徒》

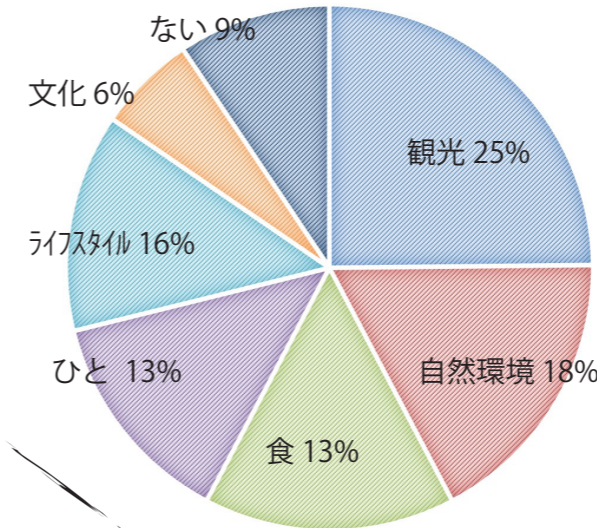


■一般対象アンケート

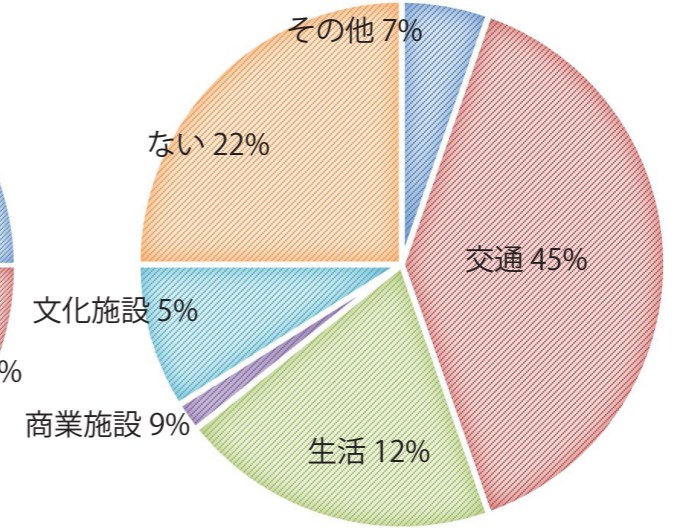
アンケート対象



《長崎のポジティブな面》



《長崎のネガティブな面》



【分析】

- ① 高校生において、積極的に長崎を「出たい」と考えている人は45%
- ② ①の理由の50%は「好奇心・自立」
- ③ 在住者は、長崎の魅力を「観光資源」「自然環境」と感じている。
- ④ 在住者は、長崎の問題点を「交通の不便さ」と感じている。

#SDGs
#未来の長崎
#10年後の自分

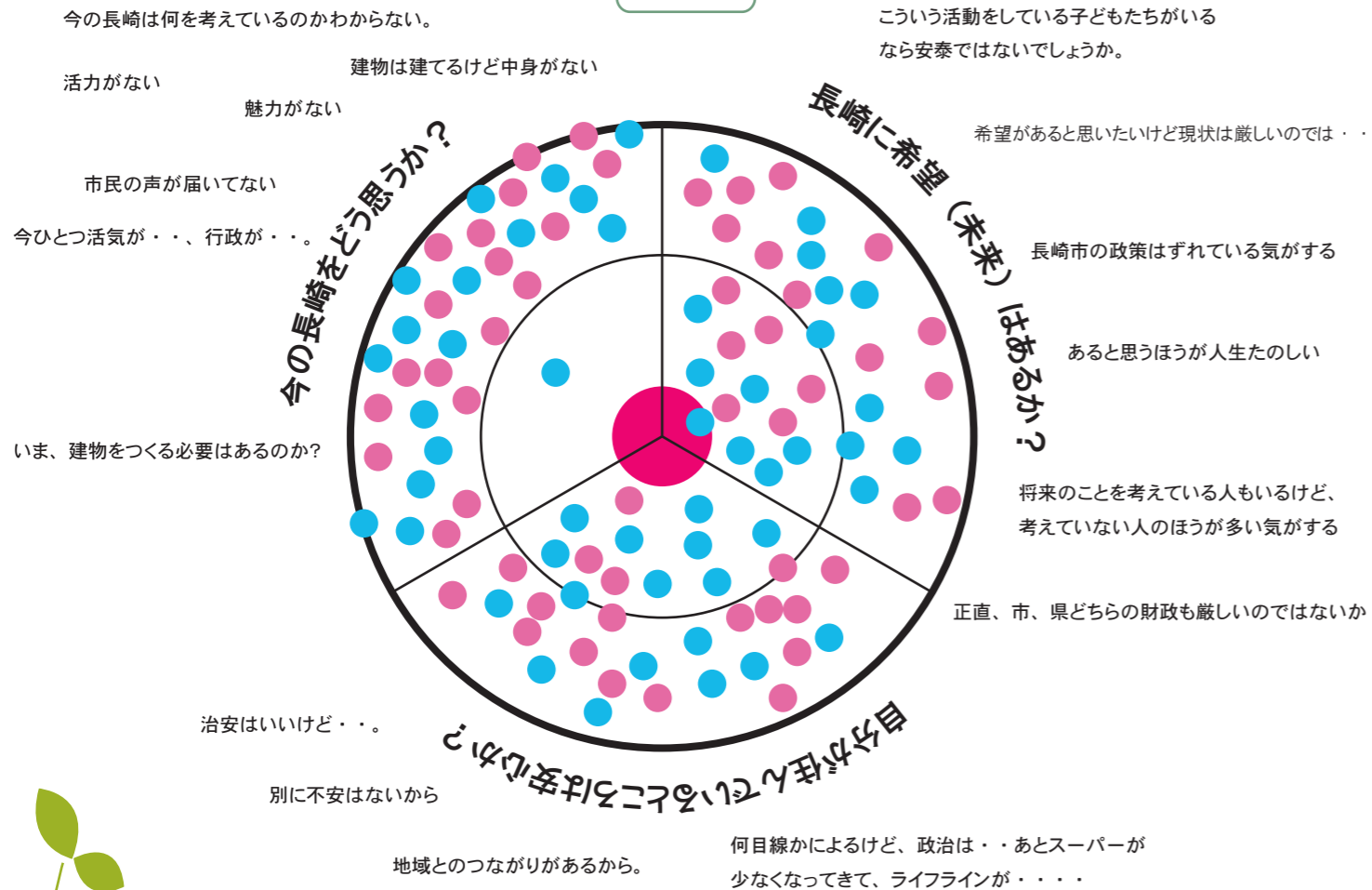
ながさき未来塾

長崎に関するアンケート

2020年2月2日に開催された「長崎SDGsフォーラム」に参加された方々に、高校生がアンケートしました。

*中心に近づくほど YES! 中心から離れるほど NO!

● 男性
● 女性



「これからの将来は、今と何が変わっていくのか？」をテーマに、5年後・10年後になくなくなると思うもの、逆に求められるものを予想しました。

《10年先には無くなると思うモノ・サービス・仕事》

モノ	サービス	仕事
<ul style="list-style-type: none"> 教科書 ノート えんぴつ 黒板 制服 アナログ時計 プリクラ 定規 車 本 プラスチック容器 公衆電話 スマートフォン 	<ul style="list-style-type: none"> 再配達 手で書く連絡ツール ICカード 紙でやる国政調査や確定申告 配達員 浜屋 スーパー 対面授業 学校の清掃 ホテルマン 	<ul style="list-style-type: none"> 教師 銀行員 ガソリンスタンド コンビニの店員 工場での仕事 勤務地の縛り タクシー運転手 上下関係 中華街 レジ打ちの店員 法律家 ビフォーレン 医師

《今後、5年後、10年後、求められる能力や変化》

5年	10年
<ul style="list-style-type: none"> AIロボットのプログラミング能力 情報リテラシー（今まで以上に） CardLessになる 心理カウンセラー 職人の技 店舗がいなくなる 敬語 上下関係 必要な情報を選ぶ力 情報の問題は増える 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減で商店が閉鎖し、買い物難民 体内チップ 特に変化なし 教師（形態が変わる） 医師（機械がやる。いざという時） 人情が必要なもの コミュニケーション能力が必要 責任は誰がとるのか AIが進む ドローンショッピング

長崎のベスト・ワーストをそれぞれピックアップ。これらには何があるのでしょうか・・・？

ながさき未来塾

#県民性
#特産品
#医療

47 都道府県・1741 市町村中

人口流出（長崎市）1位

2018年2019年連続1位!

みかんの購入数量1位

びわの購入数量1位

カステラの消費量1位

砂糖消費量3位

洋菓子店が多い県2位

じゃがいもの出荷量2位

海岸延長1位

島の数1位

釣り人口1位

魚種の豊富さ1位

アジの支出金額1位

かまぼこの支出金額1位

水産直売所数1位

高校生就職率

男子8位 女子4

東京から遠い県1位

(東京からかかる交通費)

文化財指定件数1位

バスの支出額1位

タクシーの支出額1位

自転車購入費47位

家具、家事用品の物価地域格差数1位

県民所得45位

都道府県の実質収支47位

子育て世代の相対的貧困率5位

教育費47位

雑・書籍購入費47位

なかなか教育にも教養にもお金がかけられない

1人当たりの国民医療費2位

保険医療の物価地域格差数1位

人口男女比率（女性が多い）1位

姉さん女房1位

家族との対話が多い 男性2位（女性はランク外）

【男性】人の話には共感する1位

人が困っていたら助ける1位

頼まれたら断れない1位

人に優しく犠牲や奉仕の精神に溢れている県民性?

【女性】人前では自分らしく振舞えない2位

約束、ルール、締め切りを守る46位

優しい人が多い1位

幸福度ランキング43位

人の事を優先して自分は後回しなんでしょうか?

学校の女性管理職の割合47位

男性医師数1位

10万人あたりの医師数1位

特殊出生率4位

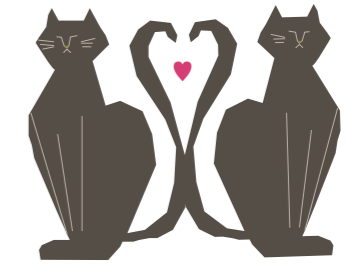
出生死亡数3位

白血病死亡率（男女とも）3位

精神及び行動障害の受療率2位

強盗の認知件数47位

犯罪発生件数44位



浮気率 男性47位

女性3位

デキ婚率6位

日曜の夫の家事・育児分担率47位

県民性診断。



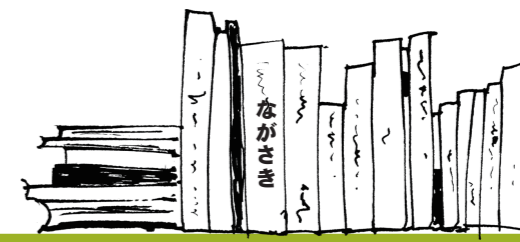
長崎水族館のペンギンの種類は世界1なんだって。



ながさき未来塾 「フィールドワーク」



商店街の中からヒントが見つかると思い、
高校生でチームを編成し、浜の町と住吉
のフィールドワークを行いました。
参考に、五島と佐世保にも行ってきました。



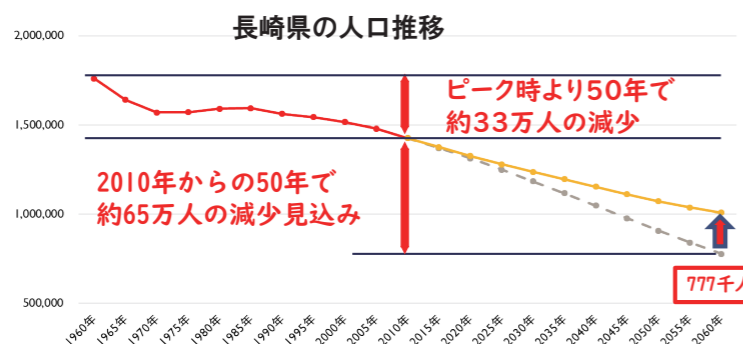
行動を起こす前にまずは「調べる」ことから



問題を感じたらすぐ動く、というのは継続的な取り組みを考えると持続力の礎としては十分なものではないと考え、感じたことを確かめるために、調べることを大切にしました。

調べるとは

- ①探す・・・自分たちが考える問題に関係する現行の制度や事例について事実を探す。現行の制度ができた背景や経緯を確かめることで、このまま継続すればどうなるか予測できる。
 - ②数える・・・問題を数字(量)で捉えようと、全体像の概要が見通せるなど重要なポイントが見えてくるだけでなく、どの問題にどれだけ取り組めばよいか具体的に示すことができる。
 - ③比べる・・・過去と現在を比べた上で未来の見通しを立てたり、異なる地点や異なる志向のグループと対比すれば、その違いの背景を知り、比較することで起こりうる様々な事柄がより明確となり予測を具体的にを行うことができる。
 - ④尋ねる・・・自分が問題と考える事柄に関わる相手に尋ね、相手からの情報を引き出すことができる。
- というわけで、商店街のリサーチや、アンケートの実施を高校生を中心に実行!! & プレゼンテーション!



五島 12月14日

五島は今年度、半期だけで約170人と少数ながらも雇用の増加やIターン・Uターンの増加によって人口が増加しました。また、先進的な再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、さらに魅力が増えています。長崎も負けてはいられない!!

佐世保 12月21日

出会ったたくさんの人とたくさんのヒント!
佐世保市の早岐町で月1回開催されているマルシェに参加!!
そこで「出会った人」と「あたたかいマルシェ」から人と人との「つながり」は商売、経済における原点であり、高校生である私たちが最大限活用できる財産であると改めて感じました。



住吉 12月8日

若者の人口は多い地区なのに、商店街に若者の姿はあまり見かけません。

利益 + α

過疎化が進んでいる住吉商店街ですが、実は障がい者支援をしているお店があったり、フードドライブに協力したいというお店がありました。商店街を盛り上げたいという熱意を感じたほかにも「商店街のお店」としての利益と「社会貢献」の2つの面を持っている部分が大変印象的でした。



浜の町 12月22日

「浜んまち」「まち」として古くから地元で愛されています。

浜の町商店街には隣接して観光通り、リカちゃん通りなどあります。

かつては賑わいを見せていた商店街も集客が減少や後継者不足は深刻な問題を抱えている様子でした。お客様のニーズに応えること、人との触れ合いを大切にしていました。浜の町を知らない若者もたくさんいるので集いやすく、より楽しめるまちになればいいなと思いました。

〔フィールドワークを通じての未来塾へのアイデア〕

フィールドワークを通じて若者の商店街に対する意識が変わったように感じます。フィールドワークを行う前までは「商店街はお年寄りの場所」「若者の楽しめる場所・魅力的な場所はない」というイメージが強くありました。しかしフィールドワークを通じて商店街の方の熱意に触れ、知らなかったお店などを知り「お年寄りの場所」というイメージの根強かった商店街が、若者でも楽しめる場所だということに気づくことができました。今回のフィールドワークを通じて商店街の方々のつながりができたため、来年度はこのつながりを基にもっと商店街の活性化に貢献していきたいと考えています。

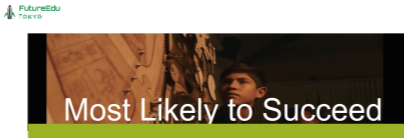




2019.12.8

ながさき未来塾

「Most Likely to Succeed」 上映会



一般参加者も招き、教育ドキュメンタリー映画「Most Likely to Succeed」を上映。上映後、2つのテーマについてグループディスカッションを実施。様々な性別・年齢・職業の垣根を超えて、熱い議論が繰り広げられました。



- 生活ができる。家族を養うことができる。やりがいを感じている。
- 自分を生かして生きれること
- 失敗と思わなければ全て成功
- 自分自身に満足しているかどうか
- 何かの目標を達成して、それを認められたとき
- 楽しいと思えること
- 好きなことやりたいことができること
- 人とのつながりの中生きること
- 信頼の中生きること
- 高い生涯所得。それを可能にする社会的地位
- 生き生きと毎日を幸せに生きること
- 人のため、自分のためにすることがあり認められること
- 他人を喜ばせることを喜びとする
- 笑顔で暮らせること
- 幸せを感じることができる

子どもにとって「成功」とは？ どんな資質が必要か？

- 自己実現
- やりたいことができること
- 結果は関係なく、挑戦できる環境があること
- 自分の居場所があること
- 自分自身が自分に満足すること
- 自分の人生が楽しいものだと思うこと
- 将来笑顔で幸せに暮らせること
- 自分とじっくり向き合う自己理解、自己分析ができること
- 自然とのつながりの中生きること
- 自分にできることを自分で身に付けたと実感した瞬間
- 生きる力が身につくこと
- 社会と関わり合いを持って生きていけること
- 成功という言葉は私にはない。自分が十分に満足したかが基準
- 自分自身が納得すること
- 自分で考えて中間とともに行動してその考えをものにすること
- 振り返って後悔がないこと
- やりたいことが仕事にできること。それで生活できること
- たくさんの友達に恵まれること
- 周囲の環境がどう変化しても自分の好きなことや才能を活かして生きていけること
- 心とからだ健康である。自立して生きていく
- 不安がないこと（自信を持てること）
- 自分で自分を認められる（=自信。他人と自分が違うことを知り受け入れることができる）
- 人生に後悔しないこと。プラス思考でやりたいことをする

- いつ何時もスタートできることを伝える
- ひとつのテーマ+αの学びができる学校
- 観察力、想像力、思考力、創造力、検証力、成果への責任と失敗からの学びを大切にする。そしていたずらをさせる。
- 自分で考えることができ、人を上手に頼り頼られることができ、自分のありのままを許せ、失敗を恐れず思考停止した権威主義者にならず、社会からの評価に縛られない、そういう資質を育む。
- 課題発見、自分を客観的に似ることを学ばせる
- 自分自身を好きになること
- 余計なことをしない
- 結果が出なくても辛抱する（自分を信頼すること）
- 同じ方向をむこうとすること。
- 失敗から学ぶ達成感を味わう
- 教師を超えていく環境
- 押し付けない。指示を止めて質問を取り入れる
- 自分で考えて行動すること
- メタ認知、自主・自律をさせる
- 色々なアイデアを引き出す。そのアイデア（わくわく）をできるだけ形にするのを手伝う

これからの学校、家庭（親）の役割は何？

- 枠を外す
- 子どもに考えさせる
- 見守り役
- 選択肢を見せる
- 精神的な支え
- ひとり一人が目的、目標、夢を持ちそれに向かう力を身に付けること
- 議論できる力
- 信じあう心を持つこと
- 成功に対する価値観が多様な教育
- 自主性を大切にする
- 学校とは場の設定。環境。
- コミュニケーション能力を育てる
- 自分も勉強する（学ぶ）
- 忍耐力をつけさせる
- やり遂げる力を付けさせる
- アドバイス
- 目標に向けて頑張らせる
- 考えさせる
- 想像力や行動力を育てる
- 形つくること。折れないこと
- よく話す。交換日記をする
- 暗記テストをやめる
- 熱中できることを知り、変化を楽しめ、新しいことに興味を持つ好奇心。
- 粘り強さ、やる気を養う
- 何事もやってみようと思う勇気を育てる
- 好奇心を大切に意思決定する力をつける
- 人間性、コミュニケーション能力など子どもの幸せのために必要なことを大切にする
- 決断できるようになること。決断のための情報収集を行う
- 好きなことを見失わない
- テストのない学校。勉強以外の能力の評価をする
- 知識、創造力を養うことは勿論、この二つを育むためのチャレンジ精神を身に付けさせる
- 自分の好きなこと、長所を知っている。
- 何か壁にぶち当たったときにプラスに考えさせる力。自分と向き合う力をつけさせる

2020.2.15

ながさき未来塾 思いを実現するチカラ

露木志奈
Shiina Tsuyuki
19歳

慶応義塾大学環境情報学部在学
環境問題について様々なプロジェクトを企画する「しいなプロジェクト」の代表。
インドネシア・パリにある「グリーンスクール」に単身留学し、日本人女性として初めて卒業

一般参加者も招き、環境リーダーとして活動する露木 志奈さんを迎えて講演会を開催。母親の由美さんにもスピーチしていただきました。学生たちは志奈さんの行動力に触発され、大人たちは子どもの個性と向き合った由美さんの経験談に、くぎ付けとなりました。

何かを始めるのに大人になるまでまたなくていい

行動を起こせば希望は見つかる、だから希望をさがすのではなく行動を探そう

自分ができることはやっていこう!!

自分にしかできないことってなんだろう

「自然化粧品を開発したい」と同時に、「環境問題も解決したい」。自己のプロジェクトを認めてもらうためレゼンテーションを行った結果、オーガニックコスメ事業「DALI BALI」の立ち上げ、事業を展開。グリーンスクール卒業後は、日本で環境啓蒙活動をしたいと慶応技術大学へ進学、学校に通いながら、ナチュラルコスメのワークショップの開催や商品開発を行っている。

自分の心が動くものを大切にする

今回の講演者、露木志奈さんは慶応義塾大学に通う19歳で、高校生とも年齢が近く大変楽しい講演会でした。志奈さんの講演を聞く中で感じたことは「若いからできない」「若いからこそできることがあるんだ」ということです。パリのグリーンスクール在学中に自身の化粧品メーカー『DALI BALI』を創設された志奈さんの経験に基づくお話はとても興味深く、刺激を受けました。今回の講演会で感じたことを未来塾に還元していきたいです。

未来塾に参加した若者の声

#若者の声

#届け!この声!

もっと多くの人と意見を交わして視野を広げていきたい!

長崎の現状を同年代の人や大人と話し合い理解を深めることができいい経験になった。

長崎はとて素晴らしい場所であるため、SNS等を上手く使用して発信していきたいと思う。

長崎の現状や、長崎を変えたいと思っている同年代の人が多くいることや、長崎には住吉のように知られていないが良い場所が多くあるということを学んだ。

未来塾で学んだことは長崎が今どんな現状なのかということと長崎の高校生がどれだけ本気で長崎を変えたいかなど知れていい経験になった。これからはまちおこしのことや地元の人でも知らないことなどをどんどん発信していき活性化に貢献したい。

まずは考えを改めていくことが必要だと感じた。未来塾の中で講演会やシンポジウムに参加してきたが、従来通りの考え方のままであったり若者の考えを上の方が否定し、一蹴してしまうところに若者は残りたいとは思わない。また、高校生が活躍できる場を増やしてほしい。学業や部活だけが学生のすべてではないという部分をもっと大々的にアピールして欲しい。これからは経済を専門的に学びながら街中に出て住んでいる人の「本音」を聞いて自分に今何ができるのか考え、行動に移していきたいと思う。

高校生は高校生なりに長崎の未来を本気で考えている。私たち若者の視点が新しい考えを生み出したり、何かの原動力になっているのだと感じた。現状、長崎には魅力も多くあるがそれが若者にとって(人口流出という面において)魅力になるとは限らないということも感じている。また、立場の違う人との意見交換の中で物事を多角的に見る視点や「若いからできない」ということはないのだということも学ぶことができた。

未来塾では普段、気に留めることのない何気ない日常は今からの未来を担う私たちが変わらなければ続くことは不可能であり、他人事ではなく自分事として考える必要性を再認識しました。また、普段生活しているだけでは決して出会うことのない違う学校、職業、年齢、性別の方たちと共通の目標を話し合うことで今までとは全く違う、あらたな『め』を持つことができた。

強い意志を持った人達ばかりで凄く刺激になったし、色々な考え方があるんだと1つの考えに囚われず多方面で見ることができてより良い長崎の未来を築けそうだった。そして自分が成長したと思うし、人生が豊かになった気がした。

私はながさきに『みる・きく・たずねる』県になって欲しいと思う。長崎のことを決めるとき書類の数字とにらめっこではなく、もっと長崎をみて、長崎の本当の魅力・財産を考え、市民の声をきき、わからないこと、解決できないことがあるなら、若者にも意見を述べる機会を増やしてほしい。

今の長崎の現状をどのようにしたら変えられるのかなどいろいろなことを話し合えてとてもいい経験になった!これからも良いアイデアを出し合って今の長崎を変えていきたいと思う!!

大人と子どもの意見では全く違うものがあって面白かった。大人に直接若い世代の気持ちを伝え、理解してもらうことの大切さを知った。

長崎のことを知れる講演等の機会を大事にし、参加をする。その聞いた話を少しずつでも活かせるような活動をしていきたい!!

長崎の現状をフィールドワークなどを通して理解して、未来の明るい長崎を創るためにたくさんの人達と交流できて楽しかったし、いい経験になった。

学生の発想力、行動力の可能性は無限大で、いろいろな考えを持った人が社会で頑張っている。

長崎を変えたい、活性化させたいと思っている若者や大人が多くいることを感じた。

オープンマインドな視点で色々な人と一緒に活動するなかで、自分らしく生きる!